

## 研究計画概要

助成年度・種別	2025年度 若手研究助成
研究者	鈴木 あい
所属	福島大学 教育推進機構「地域 x データ」実践教育推進室
研究テーマ	被災地域における駐在所の役割：福島県双葉郡を事例とした地域警察活動の実証的分析
研究計画概要	<p>交番や駐在所は日本に暮らす人々にとって当たり前の存在であるが、福島県浜通りの一部地域では、東日本大震災時の東京電力福島第1原発事故や津波被害により、交番や駐在所は使用できなくなり、一時的に拠点を失ったが、復興の進展とともに、2014年以降に再開、もしくは新たな拠点が開所された。</p> <p>米国においては、2005年に発生したハリケーン・カトリーナを事例に、地域警察活動の役割や犯罪情勢への影響について実証研究が行われているが、日本においては、東日本大震災が地域警察活動に与えた影響についての実証研究は行われていない。そのため、被災地域において再開した駐在所が、住民の生活にどのような役割を果たしているのかは未解明である。</p> <p>本研究は、福島県浜通りにおいて、駐在所に勤務する警察官に対する質的調査と対象駐在所管轄地域に居住する住民に対する量的調査を通じて、地方部の被災地域における駐在所の役割について明らかにすることを目的とする。</p>
選考委員からのコメント	<p>福島第一原発周辺地域では被災後、特別警備隊を投入するなど警戒体制が強化されたことは報じられているが、駐在所の再開・開所後の地域警察活動についてはあまり知られていない。人口の減少した被災地において、駐在所が地域の「生活安全センター」として、地域住民の暮らしの安全と安心にどのような役割を果たしてきたのか、その実際を明らかにするという国際的にも注目を集める研究課題である。これまでの学術研究と同様、この助成研究の学術的成果の積極的な国際発信を期待する。</p>